

SELF HELP GROUP

# Wendy<sup>21</sup>

ウエンディ21は障害のある人の社会参加を支援するグループです。



直方のチューリップまつりで、4月の初めごろ、一般就労で頑張っている清長さんが、スマホで撮影しました、見事なチューリップですね。  
清長さん、無理せず、お仕事頑張って下さい。

2012-6 VOL.63

## 母の事

所長 米島健二

私が十九で東京へ家でした後、様々な心配を母には、かけた。申し訳なく思っている。

二十代後半で、神経衰弱で、一旦、家に連れ戻された。それから2回ほど、入退院をして、1年間、東京のウエンズという会社に再就職した。ウエンズでは、発病前までは取締役だった。しかし病氣と知った上で雇用してくれた社長には、感謝している。その病前、病後は、記憶に無いが、様々な奇妙な行動をしていたそうだ。

実家に帰ったとはいえ、そこは、私が住んでいた場所ではない。私が東京にいる間に引越した家だ。

そこに電話回線をしき、インターネットを始めた。時代は、まだ昭和の頃だった。

実家へ帰ったのもつかの間、埼玉の病院で統合失調症（当時は精神分裂病）と診断されたので、すぐに新門司病院に入院させられた。任意入院ではあるが、母と医師が良しというまででは退院できない。しかし、入院生活は、

私にとつては、かけがいの無い貴重な体験であったし、母にとつても、安らぎの時間になったと思う。趣味のカラオケや、今も続いているおどりの稽古。

今度ウエル戸畑である初夏の踊りにも出演する。糖尿病と狭心症と白内障とか持病があるが、踊り続ける事によつて、若返っていくように見える。

やはり家族がイキイキと生きていてくれるのは大変有難い事である。いつか訪れるかも知れない、その時に、ワシは安心してあの世に行つて欲しいから、事業を安定させて、見送つてあげたいと思う。何よりワシの事を理解し回復に導いてくれた母。父にも随分心配をかけたが、母の苦労はそれ以上だろう。

頭が上がらない。その後も入退院をワシは何度も繰り返したのだが、その度に母や姉に迷惑をかけている。今は結婚して、親の立場になったワシであるが、親になって初めて親の氣持ちが分かるような氣がする。この先、娘が成長するに連れて、心配ごとが増えてくるだろうが。何とか乗り越えていこうと思う。

ブー

モナカ?



買っ たけど



つゆ入り



## 金冠日食

門司の緑ヶ丘は濃霧。になちゃんはそのテレビで、日食をリアルタイム観察しました。同じく門司の寺内のワシの実家も霧雨状態。その日ワシはジイジとバアバの所へお泊りしていたのじゃ(笑)。同じテレビ番組(目覚ましテレビ)を、になちゃんはデジタルカメラで、ワシは携帯で、撮影しました。写真は、中国の金冠日食。

テレビなので、直接見ても目害はありませんし。

現代文明のすごい所は、見えない世界をテレビやインターネット

ットで見る事が出来る事。映画やドラマ、外国がとても近くに感じる事です。

けんち☆

東京では、スカイツリーを背景に撮影している人もいました。メディアの伝える事をあんまり鵜呑みにするのも何ですが、私達の知らない所で、



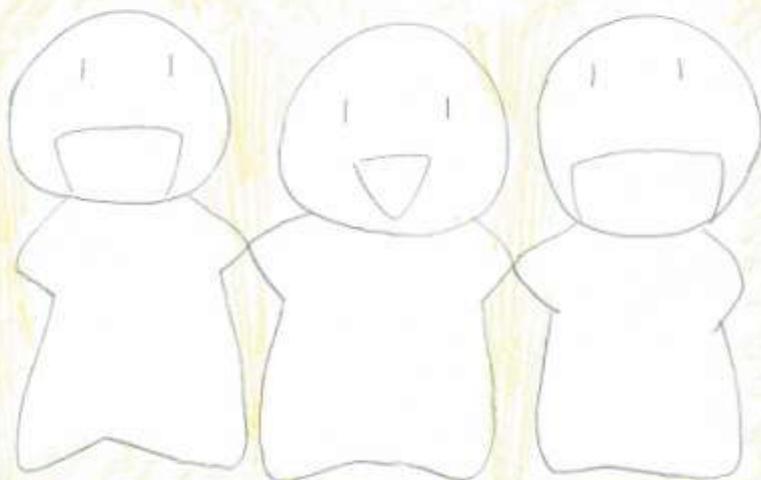
実に時代は変化していきます。私達は、平成維新の当事者である事を忘れてはいけません、

それぞれの地域でそれぞれで、見る太陽と月。この惑星に生まれた奇跡を天体ショーを。見逃した人で、専用グラスを手にして、いる人、今度は6月6日に金星食があります。しよばい点ですが、

金星が太陽をさえぎります。一番近い惑星です。近年調査が始まったばかりです。

さびしくない

あなたは絶対



ひとりじゃない

どんなに苦しい時でも、助けてくれる仲間がいます。仲間の輪に入るかどうかは、あなたの気づきと決断と勇気が大切です。

アリの科学者がUFOを見た？

羽季 のぼる

——五月頃、若葉の茂る頃しげ。ありんこの科学者は、外に出て、望遠鏡ぼうえんきょうを見ながら、  
「**UO**が出ていないか、まじめに外の様子を眺ながめていました。」

「——よし、五月四日、異常いじょうなし」

すると、いつからか、大きな人間の男の子が来ましたから、その科学者は、雪柳ゆきやなぎのそばの草むらに隠かくれました。

「はああ〜っ」

その子は、とても優やさしそうな子でした。科学者は長年の経験けいけんで、こんな子は、我々を殺す人ではないと思いました。そして彼は、  
命懸いのちがけで、その子の前に出て大声でたずねました。

「おいおい、その子。いくら人間でも、まだまだ子供じゃ、UFOなんかは見たことあるまい。ハハ、ははは」

すると、男の子は、

「テレビでは見たことあるよ」

と言いました。すると、アリの科学者は、

「わしは科学者この道一年じゃ。死ぬまでに一度で良いから、この目でUFOをみたいものだ」

と、嘆なげきました。

——一夜明けて、五月五日、子供の日。

そのアリの科学者は、まじめに、仕事をするために外に出てみました。すると、小ささまぎまの、**UO**らしき物体ぶつたいが、そここに飛とび回まわっていました。そのアリの科学者はショックきぜつのあまり、気絶してしまいました。しかし、そのUFOの正体は、ただのシャボン玉だったのです。

(おしまい)

きのう、の、ゆうがた、かいしゃがおわって、すぐに、バスにのって、小倉にかいものに行きました。こくらにいくと、なんか、会社のことなど、をわすれさせてくれる、そんな、まち、なのですね。そんなこくらのまちが、すごくいいなとおもいます。きのうは、こくらのまちで、よくいくところは、あるあるcityに、よくいっています。なんでもあるから、たのしいです。だから、まいにちが、たのしいです。

**ニューフェース** 5月からメンバーになったKさん。なかなかのツワモノ。たよりになるアニキって感じです。やはり、環境や病名が違って、どん底を知る者同志に伝わる意気は共感するし、まだ少ししか話をしていませんが、言わずもがなという、フィーリングが伝わってきます。なかなか、遠くから通うのは、大変な事。どうぞ無理せず、マイペースでご利用下さい。

**ピア・カウンセリング** 北九州市から委託を受けて、ピア・カウンセリング事業を行っています。ピア・カウンセリングとは、同じ障害を持つ仲間どうしで、情報を提供しあったり、体験を共有し、勇気づけたり、問題を解決する手助けを行うものです。平日の 11:00 から 15:00 までの最長2時間、月に5回まで無料で受ける事が出来ます。時間外や訪問も場合によっては、ご自宅、喫茶店、病院とかご自由な時間体に行っておりますので、詳しくは、093-383-3169までお問合せ下さい。当事者だけでなく、ご家族のカウンセリングも行っております。  
(担当：中西)

編集後記（事務局より）

波平です。1か月1か月が早いんですね。正に夢幻のごとくです。さて、認定NPOへの道のりは険しいのですが、ウエンディが持続可能な法人として末代まで、生き残るには、賛助会員を増やすしか道はないのか？

皆さん、それぞれの繋がりががあると思いますが、私も私なりに、構想（妄想？）を持って、少しずつ、取り組んでまいりますので、ウエンディ黎明期の社員である皆様もそうでない方々も、どうかご協力のほど、よろしくお願い致します。



<http://www.wendy21.jp>

発行 平成 24 年 5 月 25 日 NPO 法人ウエンディ  
地域活動支援センター ウエンディ本部  
〒800-0043 北九州市門司区緑ヶ丘 10 番 19 号  
Tel:093-383-3169 Fax:093-391-2167  
Eメール [wendy21@f2.dion.ne.jp](mailto:wendy21@f2.dion.ne.jp)